

研究の概要

下松市立公集小学校

1 研究主題

学ぶ喜びを育む授業の在り方

～課題設定を工夫し、子どもたちの思考をつなげる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

本研究主題は次の3点を踏まえて設定した。

(1) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「人との関わりの中で、学ぶ喜び、ふれあう楽しさを実感する公集っ子の育成」であり、支持的風土のある学級づくりを基盤としながら知・徳・体のバランスのとれた教育を目指している。

「学ぶ喜び」とは、子どもたちが「わかる」「できる」という実感をもつことであり、知識・技能が日常生活に役立つという充実感や有用感を感じることである。そうすることで仲間と試行錯誤しながら問題を解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見とその解決に向けて進んで取り組むことができるであろう。

「ふれあう楽しさ」とは、友達等との関わりの中で、他者に対する思いやりの心を育み、みんなと協働することや、話合い活動を通して自分の考えを広げたり深めたりすることである。

これらの喜びや楽しさを「人との関わり」の中で子どもたちが味わうことができる学校を目指している。この学校教育目標を具現化するためには、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っていく必要がある。

(2) 昨年度までの取組から

本校では昨年度から「学ぶ喜びを育む授業の在り方」を研究主題に掲げ、課題設定の工夫や子どもたちの思考をつなげる授業づくりを目指して研究を進めてきた。その成果として、次の3点が挙げられる。

- ① 身近なことや、興味関心があるものを課題設定することや、資料の提示を工夫することで、児童の学ぶ喜びにつながったこと。
- ② 子どもの思考のつながりや他教科、実生活とのつながりなどを、教職員が意識したことによる授業改善につながったこと。
- ③ 特別活動を通して育んできた学級の支持的風土が、友達の発言に対するうなづきや「確かに」などの反応につながり、発言しやすさ、友達の発言を聞こうとする態度につながっていること。

一方、今後に向けて改善していくべき課題としては、次の3点が挙げられた。

①課題設定の工夫について、研究の焦点化

昨年度の取組では、課題設定の具体的な内容や工夫の方法などは授業者任せになることがあった。今年度は子どもの「学びたい」「知りたい」「身近な疑問」「興味関心」などの「子どもの思い」を生かした課題設定の工夫を研究していくことで、子どもたちの学ぶ喜びを育んでいきたい。

②各教科の見方・考え方について

昨年度は教師自身の各教科の見方・考え方に対する認識に差があった。今年度は教師が各教科の見方・考え方を学び、子どもたちが見方・考え方を働かせて考えていけるように研究を深めていきたい。

③話し合う力について

子どもたち同士の思考をつなげるためには聞く力が必要である。まずは相手の話を聞き理解する。次に相手の考えと自分の考えを比べながら聞くなど、子どもたちに段階を追って聞く力を身に付けさせていきたい。また、集会の内容を決めるなどの学級活動は、子どもたちが意欲をもって自分の意見を述べ、友達の思考をつなげていくことができる良い機会である。

話す機会をたくさん作ることも必要であると考える。今年度は各学年の話し合う力の到達目標を定めるなどして、学級活動などを通して子どもたちを成長させていきたい。

(3) 令和2年度学力定着状況確認問題の結果から

令和2年度に5～6年生を対象に実施した山口県学力定着状況確認問題の結果を分析すると、学年によって多少の差はあるが、学校全体の正答率はおおよそ県平均正答率を上回っていた。しかし、設問ごとに比較すると県平均を下回っているものもあり、国語では、目的に応じて書くことに課題が見られ、算数では、順序立てて説明することや根拠を明らかにして説明することに課題が見られた。このことから、本校の児童には、目的意識をもって話したり書いたりする力や論理的に思考する力が必要であると考える。

以上のことから、今年度はこれまで育ててきた支持的風土や話合い活動の経験を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、子どもたちが学ぶ喜びを感じながら相手意識をもって協働的に課題解決に取り組むことができるよう本主題を設定した。

3 研究仮説

- 学ぶ喜びを育むために、子どもの発言や問い合わせを教師が学習課題とつなげていくことで、子どもたちが話し合う必要性・必然性を感じ、主体的に考えていけるのではないか。また、各教科の見方・考え方を働きかせることで、どう考えるかが分かり、思考がつながり、学びを深めていくのではないか。そのためにも、学級活動や日常の学級経営で人と関わる機会を多く作り、子どもたち一人一人が話し合うことに慣れていく必要があると考える。

4 研究の視点

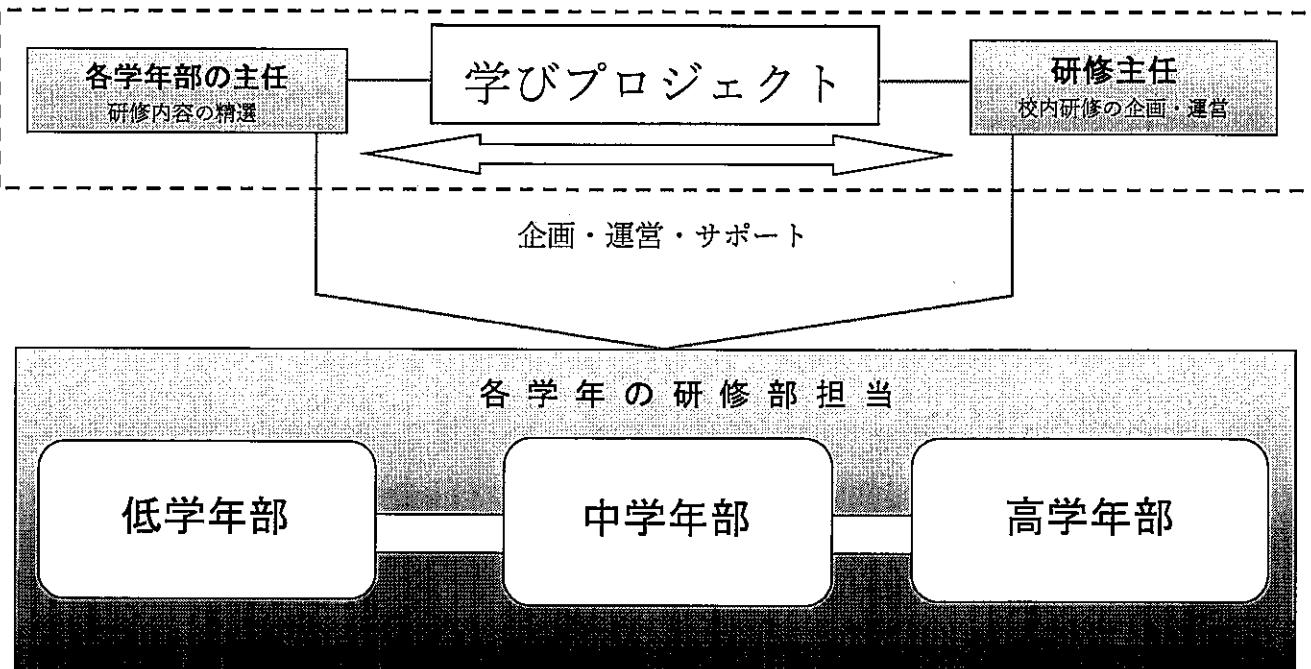
視点1 子どもの思いを生かした課題設定の工夫

視点2 各教科の見方・考え方を生かし、子どもたちの思考をつなげる授業づくり

5 研究内容及び具体的な研究活動

- (1) 低学年部、中学年部、高学年部に分かれて研修を行い、共通理解を図る。
- (2) 日々の授業実践を最も大切にし、学力向上との連携を図りながら、研究テーマをもとに計画—実践—検証—改善し、全体として取組の方向性の評価を行う。
- (3) 一人一授業では研究テーマをもとに授業を組み立てて、授業を公開する（ただし、専科は教えている教科の授業）。子ども、教師の授業評価を行うとともに、授業後はミニ協議会を開く。授業記録、協議会記録を残し、成果と課題を明らかにして継続的な実践に努める。
- (4) 実技講習などを行い、互いに教育技術を教え合うことで授業力の向上に努める。

6 研修組織



7 研究のまとめ

(1) 研究の視点について

① 視点1 子どもの思いを生かした課題設定の工夫

成果としては、身近な課題や場面、実生活に結びつくような課題設定を行ったことで、子どもたちが考えたい、知りたいと学ぶ意欲につながったことである。昨年度課題に挙がった、他教科との関わりについて、「前に社会でやった!」「国語でも同じ考え方を使った!」などのように、つながりを見つけることが学びたいという意欲につながる場面も多く見られた。

また、授業が終わった後にも子どもたちが授業の話題で盛り上がる姿が見られるようになったことも成果の一つだ。身近な課題であるからこそ、もっと話したい、自分はこんな経験があるなどと話を続けていた。さらに学びたい子は、授業の中で新たに生まれた疑問などを自主学習で調べて来たり、実験して来たりするなど意欲的に学習していた。その子の学びを教室で紹介することで、さらに学びを深めたり、自分も疑問に思うことを調べてみたいという意欲にもつながったりした。

課題としては、身近な課題や場面、実生活に結びつくような課題設定は毎時間行えないということだ。しかしそれは当然のことであり、学びと勉強のバランスを教師が意識することが大切であると感じた。子どもの思いを生かし、子どもたちが分かりやすい、イメージしやすい課題にするためには、やはり教師の深い教材研究が必要不可欠である。

また、「子どもたちの思いを生かす」については、道徳の授業のめあてを毎時間子どもたちに決めさせて授業を進めたクラスがあった。そのクラスでは、例えば本時のめあてである、「良さを認め合いながらよい人間関係を築こうとする」ことの大切さに気付くことはもちろん、「それがいいと分かっていてもうまくできないことが多い。どう考えれば良さを認め合えるのか。」「そもそもよい人間関係とはどのような関係なのか」などの人間観、世界観の本質的な部分も考えていた。子どもは生き生きと自分の経験や考えを語っていた。伝えたい、話したいと子どもの学習意欲につながっていた。

反面、「自分たちでめあてがうまく決められるようになるまでに時間がかかる」「めあてがずれていった場合には教師の介入が必要であり、力量が問われる」などの課題も残った。

② 視点2 各教科の見方・考え方を生かし、子どもたちの思考をつなげる授業づくり

成果としては、子どもたちが話す時間を、発表、グループ学習、朝の会や帰りの会など様々な場面で意図的に作り出したこと、互いに話合いができる土台を作れたことが挙げられる。

「話す」「聞く」の基礎的な力がなければ「思考をつなげる授業」にはならない。これからも話し合う土台作りを継続していきたい。

またタブレット端末を導入したこと、意見を共有し、比べながら考えやすくなったり。そのことで、思考をつなげやすくなったり、普段意見が言いにくい子もタブレットを通して意見表明ができたりするなどの成果があった。

課題としては、子どもの思考がつながる場面が、分かっている子だけになってしまいうことがあったということだ。タブレット端末などで考えを共有しても、理解やICT活用技術に差があるために、うまく意見が伝えられず、思考がつながらない場面があった。全員を巻き込んで思考がつながるようにするために、子どもたちのICT活用技術を高めたり、個別最適な学びをどう実践していくかを研究したりするなどしていきたい。

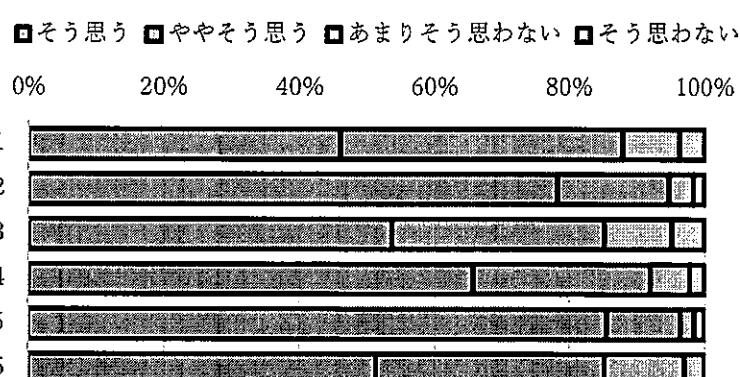
(2) 児童のアンケート結果より

9月と1月に全校児童を対象に以下の項目についてアンケートを実施し、その結果を考察した。

学習アンケート項目

1	学校の授業は楽しいですか。
2	漢字や計算の練習など、繰り返し練習する勉強は大切だと思いますか。
3	知らないことを調べることは好きですか
4	友達と一緒に勉強すると、分かることが増えますか。
5	分からぬことが分かるようになりたいですか。
6	分からぬことがあつたら誰かに聞くことができていますか。

質問別（全体）9月



各項目の肯定的な答えについてはおおむね上昇した。

- 「授業は楽しいか」 87. 8%→88. 2%
- 「繰り返しの勉強」 94. 6%→95. 0%
- 「調べる」 85. 2%→87. 2%
- 「友達と学習」 91. 8%→91. 6%
- 「分かるように」 96. 3%→97. 7%
- 「誰かに質問」 85. 2%→88. 9%

「課題設定」を適切に行なったことや「子どもたちの思考をつなげる授業づくり」を目指して授業実践を重ねてきた結果が、各項目の上昇につながったのではないかと考える。

特に「分からぬことがありますたら誰かに聞くことができていますか。」という項目は3. 7%の上昇が見られた。もっと知りたい、分かりたいと、子どもたち自身の学ぶ意欲が高

まったことや、友達学習していく中で互いに聞きやすい人間関係ができてきた結果ではないだろうか。

また、「知らないことを調べることは好きですか」という項目も2. 0%上昇した。適切な課題設定をすることが、授業の中で様々なことに興味をもち、さらなる探究学習の意欲につながったと推察できる。

全体的に向上が見られたが、「友達と一緒に勉強すると、分かることが増えますか。」という項目は0. 2%減少した。わずかではあるが、友達と関わりながら学習することの良さを感じられない児童もいるようである。またアンケートを個別にみると、「友達と一緒に勉強すると、分かることが増えますか。」の項目で「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童は、それ以外の項目も「あまりそう思わない」「そう思わない」と答える児童が多かった。おそらく、学習自体を苦手と感じている児童がわずかに増えてしまったのではないだろうか。ただし、「そう思う」と答えた割合は9月「65. 6%」に対し1月「70. 6%」と大幅に増加している。多くの児童は友達と学習することの良さを感じているようである。今後は学ぶ喜びを育むとともに、学習したことが「分かる」「できる」と実感させることで、学習に苦手意識を感じている児童を少しでも減らしていきたい。

質問別（全体）1月

■そう思う □ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない
0% 20% 40% 60% 80% 100%

